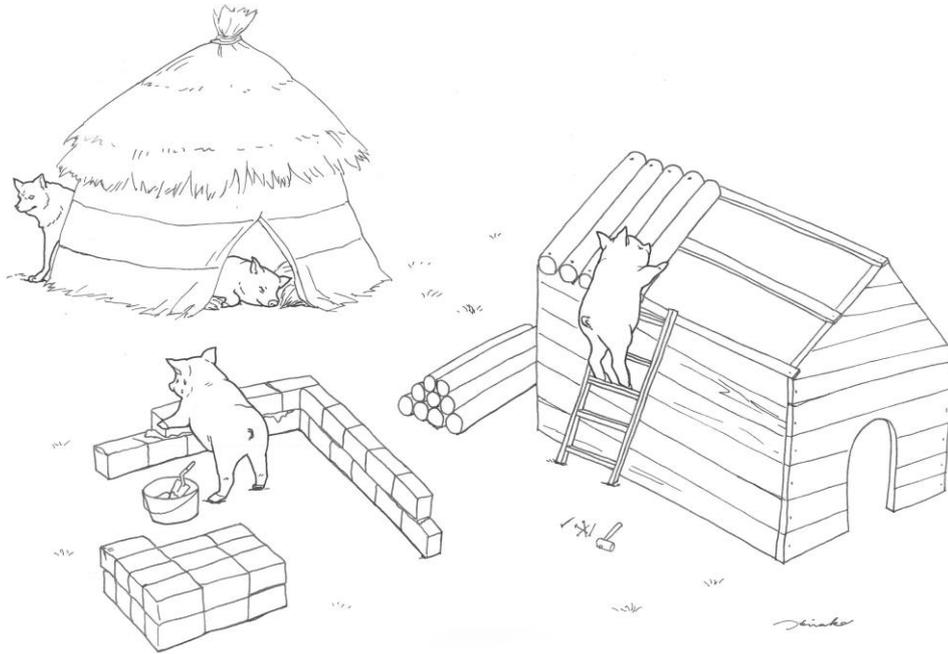


「日本の家」 1
3匹の子ブタと日本の家



(Drawn by Hinako FUJIMURA)

「3匹の子ブタ」の話を知っていますか。

3匹の子ブタは3つの家をつくりました。一匹目の子ブタはわらで家を作りましたが、わらの家はオオカミに「フーッ」と吹き飛ばされました。二匹目の子ブタは木で家を作りましたが、木の家はオオカミに燃やされました。三匹目の子ブタはレンガで家を作りました。家を作るのに時間がかかりましたが、丈夫な家できました。レンガの家はオオカミから子ブタを守りました。

多くの方は、この話を読んだあと、がんばってレンガの家を作ったほうがいいと思ったでしょう。しかし、一般的な日本の家は、木でできていることを知っていますか？屋根は瓦ですが、柱や床は木でできています。ドアはなんと紙でできています。

このような家の一つが町家です。町家とは、古い町にある特別な家のことです。町家は約1000年前から作られるようになって、1700年～1800年にいまのような町家できました。町家は道路に面して建てられていて、細長い家で、奥に庭があります。庭に向かって靴であるけるように、入り口から庭まで一本の土の廊下（土間）があります。食べ物や道具を売っている町家が多いので、ふつう、道路に近いところに店の間があります（間は部屋のこと）。店の間となりの部屋はごはんを食べる「茶の間」、その奥に寝るための「奥の間」があります。家の作り方はどこもほとんど同じなので、古くなった家の柱や戸（戸はドアのこと）を外して、次の新しい家を建てる時に再利用することもできます。古くなくても直しやす

いので100年以上つづく家が多くあります。京都や金沢には、このような町家がまだたくさんあります。

町家はとても古くて、寒くて、不便です。自分の家の壁と隣の家の壁はぴったりくっついていて、戸は紙でできていますから、隣にいる人の声がよく聞こえます。木でできているので、火事になるととても危険です。そして、それぞれの家の作り方は大体同じですから、個性もありません。

そのため、古い町家はどんどん壊されて、若い人たちは便利で安全で個性的な家を建てるようになりました。若い人たちが建てる家は、コンクリートの家、れんがの家、鉄の家、化学素材を使った家などです。そして、家の向きもバラバラ、壁の色もバラバラの家が日本中に増えました。さらに、日本の高度経済成長期（1955～1973）、中心地から離れたところに「ニュータウン」（New Town, 新しい街）という名前前の街ができて、新しい家がたくさん建てられました。多くのサラリーマンにとって、車を買って、ニュータウンに家をたてて、そこで生活するというのが一つの夢でした。

2020年の今、日本は少子高齢化が進み、人口は減りつつあります。人口の減少とともに、空き家がとても増えています。今、日本にある家の1/8が空き家です。若い人たちがいいと思う家は、10年経つとその価値が半分になり、30年後は0円になります。家に価値がないので、どんどん壊されて大きなゴミになります。そのゴミは山の中に捨てられ、家が壊されて何もなくなった土地にまた新しい家が建てられているのです。



町家がたくさんある金沢・ひがし茶屋街（松田撮影）



町家の中（松田撮影）



(1251^じ字)

(2020.12 Written by Makiko MATSUDA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.